

学びと共鳴編 中京マチビト Café 開催報告

「マチビト×空き家活用」



中京マチビトCafeとは？

中京の今後の自主的なまちづくりについて、ワークショップ形式で話し合う交流会です。まちづくりについての情報交換、交流の場として開催しています。

1 今回の目的

- 「京都市の空き家」についての現状・課題を共有
- 参加者の空き家活用についての行動意図へのはたらきかけ

2 プログラム

1 井戸端会議

「私の周りの身近な空き家」

中京区基本計画企画運営会議委員の皆さんに身近な空き家活用についてお話いただきました。

3 事例紹介

- ・扇沢友樹さん(株式会社めい)
- ・関昌一さん、赤崎盛久さん(梅屋まちづくり活動チーム)
- ・村田敬太郎さん(糸でつながる33mのマーケット itonowa)

5 振り返り

それぞれのグループで学んだうえで、新たに4～5人のグループに分かれて意見交換を行いました。

開催日時：平成27年12月3日(木)
午後7時～9時30分

場 所：中京区役所4階会議室

参加者：130名(運営スタッフ除く)



2 基調報告

「京都市の空き家対策について」

京都市都市計画局まち再生・創造推進室の寺澤昌人課長に京都市の空き家対策についてご報告いただきました。

4 意見交流

6つのグループに分かれて分科会形式で意見交流を行いました。

- ・人見建設株式会社
- ・株式会社めい
- ・都市計画局まち再生・創造推進室
- ・梅屋学区、朱雀第一学区
- ・柴田晴美さん
- ・糸でつながる33mのマーケット itonowa



3 豪華ゲストによる事例紹介と意見交流！

中京マチビト Cafe「学びと共鳴編」は皆で同じテーマについて“学び”、話し合い“共鳴”することを目的に昨年度から年2回開催しています。今年度二回目となる「学びと共鳴編」は「空き家活用」をテーマに開催しました。



初めに登場した井戸端会議は、中京区基本計画企画運営会議委員のメンバーによる「私の周りの身近な空き家」についてのお話。実際に自身の身の回りで起きたことを分かりやすく発表し、空き家についての問題提起を身近な事例で示していただきました。

京都市都市計画局まち再生・創造推進室による基調報告では「京都市の空き家対策」について事例を交えながら説明していただきました。京都市の空き家率は14.0%と全国平均を上回っており、今や空き家問題は身近で大きな問題です。現状や課題を踏まえたうえで、実際に活用する方法を考えていきます。



事例紹介では、地元で空き家対策を行っている「梅屋まちづくり活動チーム」、シェアハウスの活用等を行っている「株式会社めい」、所有している空き家をまちのにぎわい創出の場として再生した「糸でつながる33mのマーケット itonowa」の3組にご出演いただきました。それぞれの活動に特徴があり、空き家活用のきっかけや大変さなどとても興味深い内容で、参加者の方々も熱心に耳を傾けておられました。

その後、6つのグループに分かれて分科会形式で意見交流を行いました。基調報告・事例紹介をしていただいた4組以外に2組が加わり、人見建設株式会社より「空き家の流通について」柴田晴美さんより「想いのある家を開く～本・ギャラリー・講座でつながる場づくり～」についてお話いただき、更に深い学びの場となりました。



最後に振り返りの時間で、個人の学びを皆で共有しました。事例紹介、意見交換を通して「空き家活用」について知り、それぞれの考え方を共鳴していただけただけではないでしょうか。

次回のマチビト Cafe は2月25日(木) 19時～21時15分です！たくさんの方のご参加をお待ちしています！

● 当日の会場風景



● 参加者の声 (一部抜粋)

- 素晴らしい取り組み！参加者の熱気に触れ、エネルギーをいただきました。テーマも市政の課題に密着しており皆様のご意見が大変参考になりました。
- 会場あふれるばかりの参加者で、空き家に関心のある人がこんなにもたくさんいたことにビックリしました。あっという間でした。
- いろんな年代の方と交流する機会はなかなか普段できないことなので、とても貴重な体験でした。今後もぜひ参加させていただきたいと思っております。
- 初めて来ましたが、熱い人が多く刺激になりました。空き家活用について色々な角度からのお話が聞けて良かったです。
- 知識がなかった私ですが、皆様の意見や取り組み方など大変参考になりました。
- テーマを決めたワークショップは中京ならではの、とても楽しい取り組みです。
- 空き家対策は行政だけでなく、地域住民の方々の協力のうえ成り立っているということが分かりました。地域の状況を把握できる一番の人は住民の方達なの

で、積極的に中京区に住む一員として地域の状況を把握すべきだと感じました。

- 貸主側のお話が聞けたことが有意義でした。特に「受け継いできたものだから売ることはなるべく避けたい」という考え方が残っているのは京都ならではのよう感じました。
- すでに空き家になっている家もさながら、空き家予備軍が多いことに危機感を覚えました。「個人の資産だから放っておいて」では済まさないこと（リスク等）が社会の共通認識になるには何ができるのか考えさせられました。
- 空き家問題は供給側にも問題があると改めて感じました。課題をしっかりと共有し、活用することによどのような意義があるのかの認識を深め、かつ実行のためのハードルを下げる必要があると感じました。そのために本日の様なことは大変意義深いと思いました。
- 事例紹介を見せていただき、行動力のある方々だなと感心しました。私もやりたいと思う気持ちを具体的にしていき実現できたらいいなと思いました。時間が足りないくらいでしたね。
- 空き家を活用することはそれで終わりではなく続いていくものだ改めて感じました。その空き家一軒が埋まれば良いのではなく、周りの地域に合った空き家の活用が促進されていけば良いなと思いました。

